

図書館だより

埼玉県立図書館

19号



(北埼玉郡大利根町北大桑)

れんげ田

紅紫色の花の群れが美しい。農村は春のさかりだ。れんげ田のとなりに菜の花が匂い、梨の白い花も咲く。

マメ科の二年草であるれんげ草は、根に根粒バクテリアを有し窒素を貯えて、田の肥料となる。農村の子供は田ぶどうと呼んだりげんげといったりした。大きくなると、紫雲英や蓮華草の文字を知って、うたごころを育てた。

花が枯れるころ、農家では田おこしをはじめ、稲作の準備をする。今はトラクターが軽やかな音をひびかせて、大地をほりおこしていく。農村の春は一気に躍動する。

それまでのひととき、花の田んぼで本を読む母親たちの姿もみられる。朝太郎や光太郎の詩を読む声がきこえてくる。お茶の時間、赤いイチゴが皿にもられた。

紅紫色の花の田んぼは、農村の文化も育てようとしている。

心に残る若き日の思い出

拙著「紫苑の花咲く庭」より

折原正典

岐阜県上郡八幡町は、奥美濃の教育・文化・産業の中心地で、宝暦八年（一七五八）丹後宮津の城主青山幸道が四万八千石でここに入郡してから、青山氏七代の城下町として発展した。城主青山氏は、馬市を開き領民の娯楽として盆踊りを奨励したので、郡上節で知られる民謡と踊りの古里として全国的に知られており、また町の中央を吉田川（長良川の支流）が流れており、水清く風光明媚な山峡の城下町である。

私が東京の学校を卒業して初めて就職したのが、この岐阜県上郡八幡町小野九七〇にあった県立郡上農林学校（現県立郡上高等学校）である。その時、私の母は当時のお金で拾円の札を紙に包んで私の洋服のポケットに入れ、門口に立って、体に気をつけて確りやるようにと泣く涙ぐんで送り出して下さった。見知らぬ羊腸の山脈を越えてひた走る越美南線に揺られて、はじめて郡上八幡駅についた時は奥美濃は雪に覆わ

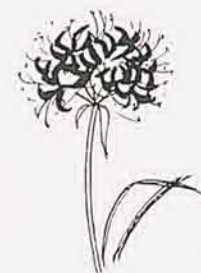
れていた。——当時の越美南線の汽車の中には、薪を燃やして暖をとるストーブが各車輻の後方にあり、その回りで薪で編んだ雪靴を履いた老人がキセルで刻み煙草を吸っていた。私は八幡城（積翠城）の弾え立つ城山の麓にある学校に赴き、校長先生にお会いして着任のあいさつをしてから、かねて先輩が予約しておいて下さった吉田川の畔に面した古池旅館に行き、二階の六畳の座敷をお借りして下宿生活に入った。下宿料は三食付きで月拾貳円であった。私の給料は本俸が月額八拾五円で他に舎監手当が月額五円だった。その頃五十歳の小学校長や警察署長の給料が月額八拾円から九拾円位だったので、二十歳の私の給料は上等の方であった。県立郡上農林学校の校長先生は古田一作先生という口数の少ない、謹厳な古武士を思わせる頭の下がる立派な校長先生であった。

この歌は、私が郡上八幡に赴く時、涙ぐんで門口で送り出してくれたわが母の姿を思い浮べて、東海道本線の夜汽車の中で作ったものである。明治十九年生れのこの母も昭和二十二年四月十六日に亡くなってしまったが、私にとっては忘れられないわが母親の思い出である。

汝が職業にはげめと言ひしその
母の涙は熱しわが胸にあり

練道場である凌霜塾があり、宗廣力三氏が塾長をやっておられた。私はよく楠章氏（早大出身の地域の文化人）や宗廣力三氏（郡上紬の、国の無形文化財保持者）等と歓談する機会を得て、郡上の歴史や郡上紬などの産業について、いろいろと教えていただいた。また戦時中であつたので、この頃よく郡上郡口明方村への援農実習に生徒を連れて行き、苗代田の畦畔に腰をおろして御馳走になった「朴葉ずし」の味も、付近の山々に朴の木が白い葉裏を風にひらめかしている眺めも、共に捨て難い奥美濃の風物詩であつた。

猪鍋をかこみ郡上の夜の雪



昭和五十一年九月二十四日に教え子の一人から一通の便りが届いた。次のようなことが記されていた。『九月も既に下旬となりました。初秋の足音は奥美濃にひたひたと迫り、峠かけのひそかに去った川辺には彼岸花が赤く咲き乱れております。』

思えば昭和十七年四月県立郡上農林学校第二十二回生として、校門を潜

つた農林科生徒五十四名、学級担任は新進気鋭の折原先生、そして生徒は至極張り切った連中ばかりでした。月日は流れて幾星霜、三十三年を経た今日既に他界したもの数名、私たちも五十歳を数えようとしています。先生に教えていただいた一年間の短かい間、多感な私たちにとって、それは珠玉の期間でありました。先生とお別れしてから間もなく戦争が激しくなり、私も三年になった昭和十九年六月には、私たちの学校にも七十名の予科練志願者の割当てがあり、私たちの学窓をゆきぶり続けました。私は級友と一晩中語り明かした後で、潔く死に赴こうと志願の先頭に立ちました。思えばこの一夜の語らいが私たちの生涯の転機となつてしまいました。出陣した者は予科練第十五期特別攻撃隊員として、その殆んどが伏龍特攻隊に配属されました。でも出撃直前に終戦となりました。でもよくぞ一命をとり止め、私も命あつて復員し、進学を楽しみにして家に帰ってみれば父は死の病床上にあり、その年の十月に他界してしまつたので、遂に進学を果したことなく銀行員となりました。私の夢であつた折原先生の歩んだ道を私も歩みたいと願っていた若き日の情熱

・憧れが今更ながら胸につきあげてきます。私も郡農第二十二回生は、修学旅行がありませんでしたので、一度計画したいと考えております。その時は是非とも一緒に参加して下さいまようお願い申し上げます。

これらの教え子の中には、現在、岐阜県下の公共図書館で幹部として立ち働いている者が居る。彼等が今迄の人生経験の中から身につけた人生哲学と、郡上の地理的環境の中で培われた「おおきに、おかげさまで、なにくそ」という地域の人びとの合言葉に支えられ、人びとの生涯学習を資料面から保障する図書館への地域住民の期待にこたえて、図書館業務に情熱を傾け、これを推進し、個性豊かな地方文化の創造と発展に尽力されるよう心から願っている今日この頃である。

（埼玉県立久喜図書館協議会委員）
（元・埼玉県立熊谷農業高等学校校長）



県内図書館めぐり

八潮市立図書館

八潮市は、県の東南部に位置し、人口、六万四千余り、東京都足立区に隣接しています。市制は、県下三十四番目として、昭和四十七年一月十五日にされました。

図書館は、市制施行十周年記念事業として、元町役場跡地（二、四〇〇㎡）に建設され、昭和五十八年五月十七日に開館いたしました。建物は、鉄筋コンクリート二階建、公民館と併設となっており、一階部分（一、二〇〇㎡）が図書館です。内部は、およそ五つのコーナーに分かれています。

○児童コーナー（一五〇㎡）
低書架を中心にユニット書架を配置し、コーナー内いっぱいに書架群を構成しています。また、周囲の窓下にベンチを設け、軽読書、貸出を主としました。蔵書数、一四、〇〇〇冊。

○身障者コーナー（三五㎡）
点字図書、大型活字本を備えました。また、車椅子利用者のための閲覧机も用意してあります。蔵書数、八〇〇冊。

○一般開架コーナー（二七〇㎡）
大学教養課程の学問（人文・社会

自然科学など）全般にわたる資料群を中心に、文芸書、実用書など貸出向図書があります。座席数、二〇、蔵書数、三、〇〇〇冊。

○専門書コーナー（八六㎡）
参考図書群を中心に、調査研究のための資料集、そして、豪華本、美術書（大型）があります。座席数、一二、蔵書数、五、〇〇〇冊。

○新聞・雑誌コーナー（二四㎡）
新聞は、四種、雑誌については、四〇種取りそろえてあります。

このほかでは、貸出業務、書誌情報検索のため、漢字処理による電算を採用しました。また、書庫（一〇〇㎡）には、電動書架（複式七連一五列）を設け、将来は、二層にもできます。



所在地 八潮市中央3-32-11
電話 〇四八九（九三）六三二五

埼玉の
文学
埼玉関係の俳諧資料考

▽ 4 ▽

前回まで県内の東西南部と書いてきたので、今回は県北部・児玉町の久米逸淵を紹介したい。

逸淵は、寛政二年(一七九〇) 児玉の八幡山町久米家に生まれ、幼名を清一郎といい、俳諧を毛呂山の川村碩布に学び、はじめ俳号を可布、後に可布庵と称していた。別号を瓢頭、瓢隱居、椿老人、似我老人、逸淵老人などと記している。出身地名を冠せた児玉逸淵として知られている。

江戸・高崎・本庄と移り住み、文政七年には、春秋庵系の宗匠を、碩布から継承している。文久元年(一八六一) 七月二十日七十二歳で歿し、児玉町の玉蓮寺に葬られている。

図書資料について

昭和十六年再版、埼玉図書館叢書第五編、埼玉名家著述目録によると、逸淵句集 板 慶応三(門下編) 俳諧龜羅集二冊半板 還暦の百韻 椿塚集 板 文化二 逸淵追善句集とあるが、未見のものがある。私が最近、金沢市立図書館俳書展目録の中から、逸淵門発句集を見つけた、埼玉資料として取寄せたので、

その内容を簡単に解説すると、嘉永四年(一八五二) 戊申の灌仏日(釈迦誕生の四月八日) に板行したもので、逸淵老人と記し瓢隱居の大型凸印が押される発句集である。



巻頭には、芭蕉のよし野にて桜見せうぞ松笠の句を掲げて、蕉風の俳系であることを表明している。門人は三十七か国(旧国名)に及び、武蔵三十五名、江戸四十六名と多くの弟子の発句を集めている。埼玉

玉にかかわる盛名の門人に、双鳥、南々、寄三、玉芝、青荷、隣山、為一、太魯、五渡等の句が彫られている。コピーながら埼玉資料として、大切に保存したいものである。

次に浦和図書館に以前からある資料として、逸淵発句集(上下)がある。逸淵歿後の七回忌(慶応三年七月)に、息子の信則が追善板行したものである。これも貴重なもので、埼玉資料室で閲覧をおすすめする。

なお、このほか図書資料として、昭和三十六年十月二十四日付ガリ版印刷の俳人久米逸淵に就てがある。埼玉県文化団体連合会・埼玉郷土文化会・児玉町・児玉町教育委員会、はなわ俳句会により、逸淵歿後百年忌に刊行したものである。同好者に配布され公的機関ではないところが多いので、貴重なものである。

逸淵等の句碑について



鶯や持て生まれし春の声 逸淵
児玉町の玉蓮寺には、逸淵生前に建てた句碑がある。安政六年の同じ年の春、同地八幡宮の境内に、川村碩布師の春の川夕山晴れて流れけりの句碑を建てている。これは逸淵の弟子の青荷が謹書し刻んだものである。またそれより前の天保二年(一八三一) 晩春には、山路来て何やらゆかし董草の芭蕉句碑を逸淵門によって建てたが、残念ながら昭和十八年の戦争供出(鉄製円筒型)にあつてしまった。同町では有志によつて、昭和三十六年一月逸淵百年忌にあたり、同句を自然石で再建したので、現在でもこの句碑を見ることが出来る。

一茶のわが春序文について
嘉永壬子(一八五二) 春涅槃日(釈迦の忌日陰暦二月十五日)に、東都(江戸)において「わが春」が板行されている。逸淵が序文を書いているが、一茶とは一期の風雅の友として、郷里である柏原を訪れ、泣いたり笑ったりして別れたが、一茶の死後、一茶という者が遺稿を編むことになり、その序者を頼まれたのも、何かの因縁によるものであると、才氣あふる文章で、一茶と逸淵の交友関係を誌している。

(鈴木)

東西南北

県立浦和図書館

○新着フィルム映画会

日時 3月28日(水)14時

内容 「荷戈里峯への道―北陵初登頂―」・「文楽に生きる吉田玉男」

○郷土を知る映画会

日時 4月11日(木)14時

内容 「埼玉ニュース」・「秩父の通過儀礼4―クレ祝儀・モライ祝儀―」

日時 4月12日(金)

内容 「埼玉ニュース」・「秩父の通過儀礼5―年祝いから先祖供養まで―」

県立熊谷図書館

○名作映画鑑賞会

日時 4月7日(土)10時・14時

内容 「あ、野麦峠」

○映画会

日時 4月20日(金)12時15分

内容 「女王蜂の神秘」

○ビデオコンサート

日時 4月28日(土)14時

内容 「谷村新司・さだまさし/スベシヤルライブ」

○子ども映画会

日時 5月12日(土)10時・14時

内容 「くまの子ウーフ」・「長ぐつ三銃士」

○ビデオコンサート

日時 5月26日(土)14時

内容 「あつき血汐に/小柳ルミ子」

県立川越図書館

○郷土を知る映画会

日時 3月22日(木)14時

内容 「ふるさと歩道―黒山三滝と梅林コース―」・「埼玉の水―あすのために大切にしよう―」・「清流に憩う―埼玉の釣り場―」・「鍛える」・「ピッポ君の迷惑退治」

3月の主な催し物

○新春フィルム映画会

日時 3月28日(木)14時

内容 「湖は、いま」・「二千年の味―日本の食文化―」・「大地震―マグニチュード7の証言―」

○春休み親子映画会

日時 3月30日(土)10時・14時

内容 「クオレ物語」・「わんぱくうさぎ、タレくんのぼうけん」

日時 4月5日(木)10時・14時

内容 「翔べ・オオムラサキ」・「ヘンゼルとグレーテル」・「赤ずきんちゃん」

○名作映画会

日時 4月14日(土)10時・14時

内容 「泥の河」

○映画会―環境保全を考える―

日時 4月26日(木)14時

内容 「湖は、いま」・「合成洗剤と水質汚濁」・「干潟の詩」

県立久喜図書館

○レコードコンサート

日時 3月22日(木)12時15分

内容 ポストン・ポップス・オーケストラ「ザッツ・エンターテインメント」他

○名画鑑賞会

日時 3月24日(土)10時・13時30分

内容 「はるかなる山の呼び声」

○春休み子ども映画会

日時 3月29日(木)13時30分

内容 「くまの子ウーフ」・「小人になったボッパ―博士」

◎くわしくは、各図書館視聴覚課へ。

県立図書館の開館時間・休館日は……

	貸出閲覧・調査相談 (一般書・郷土資料 新聞・雑誌)	貸出閲覧・調査相談 (児童書)	対面相談 (川越・久喜)	視聴覚	移動奉仕
開館時間	9:00~19:00 土曜日・日曜日 9:00~17:00	9:00~17:00	9:00~17:00	9:00~17:00 土曜日 9:00~12:00	
休館日	月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日) 月曜日・国民の祝日・年末・年始(12月27日~1月5日)・春秋特別整理期間(各10日間) 開館記念日(浦和・熊谷4月1日、川越10月1日、久喜6月3日)			日曜日	

埼玉県立浦和図書館
〒336 浦和市高砂3-1-22
☎0488-29-2821埼玉県立熊谷図書館
〒360 熊谷市箱田5-6-1
☎0485-23-6291埼玉県立川越図書館
〒350 川越市新宿町1-17-1
☎0492-44-5602埼玉県立久喜図書館
〒346 久喜市下早見85番地
☎0480-21-2659

読書グループの紹介

玉川村読書会

会が賑々の声を挙げたのは、昭和五十二年である。それは、読書教育に造詣が深い柏保昌平村長の生涯教育を進める一端としての助言によるものである。推進母体は、当時、発足したばかりの母子愛育会で、当初は三十五名であったが現在百名に達している。

目的は、「本を読む事」以外の何ものでもない。即ち、活字を通して自己の教養を高め、個人では経験出来ない諸々の事柄を本によって経験し、生きて行くための心の糧とし、豊かな人間性を培う事である。

読書会は図書を、会員に毎月一冊を、県立川越図書館の貸出文庫から借りて行い、この時、比較的文学の大きい本をと、心掛けていた。眼鏡を使用して読む人が多いためである。私どもの村には数年前、村立図書館が設立された。この時、読書会役員で村内の家を廻り、家庭内に眠っている生活用品を頂戴してバザーを開き、その売上金を児童図書購入費の一部として納めた。子を持つ親と

して、ささやかな行為ではあったがこのことにより会員同志の心の絆がより大きくなった様である。

その他の活動として、国立婦人教育会館に近いので、同館が主催する教養講座には積極的に参加した。また、文学散歩も年一回行い、ゆかりの地を訪れるとともに、遠山記念館、県立博物館、丸木美術館をはじめ、遠くは山梨県立美術館を見学した。今回は、埼玉県立近代美術館



文学散歩一竹寺にて一

の見学を含んだコースを予定している。交通の便に恵まれない私どもであるだけに、学習意欲が旺盛なのかも知れないと私は思う。

私たちは、生活学習として、故角川源義先生の「継続は力なり」の言葉どおり、地道にこの会を続けて行く心づもりである。

(小野田)

読書会たんぽぽ

富士見市読書グループ

雪の下 故郷の夜
冷たい風と 土の中で
青い空を 夢に見ながら
野原に咲いた 花だから

「たんぽぽ」は、こんな歌に想いを託して、五十二年春、咲きだしました。発会者は、会員の子供たちが幼なかつたので絵本が主体で始まり、「かわいそうなぞう」を読んでもあげながら声がつまって困ったり、「くまのプーさん」に教えられて、ハチミツを欲しがられたり、親子ともども、泣いたり、笑ったりの会でした。が、斎藤隆介の「ミコ」などとの出逢いで、従来の絵本から脱出する足がかりを得ました。最近では、翻訳者清水真子先生の講義を何度か受け、「今の瞬間を生きる喜び、悲しみ、不安、苦しみを子ども自身に、確かな手ごたえで伝えてくれる」そんな童話に感激しています。

この頃、目覚ましいヤングアダルト向けの「アウトサイダーズ」、「だれが君を殺したのか」など読み始めましたが、その奥行きに深さにとまどっています。

今年はグリム生誕二〇〇年とか、初心に返って「白雪姫」なども読んでみたい読書会です。五人で発足したこの会も十二人に増え、時折司書の方に講義をいただいて、年表を追って勉強したり。ファンタジーから冒険物まで多様になり、いつの間にか、「裂け谷」に入り「霧ふり山脈」(指輪物語)へと向って参りました。「子どもと一緒に良い本を」でスタートした読書会でしたが、今では子供たちも成長し、親だけの児童文学読書会となりました。

「たんぽぽ」という会名は少々気恥ずかしいと思いますが、それでもなお夢を追いつづけ、ガラスの部屋のバラの花より嵐の空を 見つめつづけるあなたの胸の 思いのように心に咲いた 花だから いろんな花より たんぽぽの花をあなたに贈りましょう

綿毛が飛んで小さな「たんぽぽ」が生誕することを願っているのです。(早川)



映画と原作

情報化社会の時代といわれている今日、図書館でも、一般的な図書資料の他にビデオテープ・フィルム・レコード等、図書とは形態の異なるさまざまな資料の収集と提供に目を向けてきています。

そこで今回、県立図書館が所蔵する16ミリ映画フィルムと、その原作となった図書資料のいくつかを紹介いたします。目録耳なれた題名も見受けられると思います。

16ミリフィルムは取り扱い上などで、簡便に利用しにくい面もありますが、これを機会に、違った方法で資料に接してみたいかがでしようか。

なお、御利用の申し込み、相談等は、県立各図書館視聴覚課へお気軽にお寄せください。

記載の内容は、以下の順になつていきます。

映画題名 企画・製作 製作年

- | | | | |
|----------------|-----------------|----------------|--------------|
| (所蔵館名) | 原作書名 | 著者名等 | 出版者 |
| 〈合集・シリーズ名〉 | 出版年 | | |
| (所蔵館名) | 一般成人向劇映画 | | |
| あゝ野麦峠 | 新日本映画 | 79 (川) | |
| 同一ある製糸工女哀史 | 山本茂 | | |
| 美著 朝日新聞社 | 70 他 (浦・熊・川・久) | | |
| 大地の子守歌 | 行動社・木村プロ | | |
| 76 (浦) | 素九鬼子著 筑摩書房 | | |
| 74 (熊・川) | 泥の河 木村プロ | 81 (熊) | |
| 同 (螢川に併載) | 宮本輝著 筑摩書房 | 78 他 (浦・熊・川・久) | |
| 二十四の瞳 | 松竹 | 54 (熊) | |
| 同 壺井栄著 新潮社 | 日本文学全集27 | 68 他 (浦・熊・川・久) | |
| 文学全集27 | 68 他 (浦・熊・川・久) | | |
| 同 吉野せい著 弥生書房 | 75 (浦・熊・川・久) | | |
| 同 春男の翔んだ空 | 現代プロ | 77 (川) | |
| 同 同一ある教育讃歌 | 遺稿集編集委員会編 あらき書店 | 77 (浦・熊・川・久) | |
| 同 坊っちゃん | 松竹 | 66 (熊) | |
| 同 夏目漱石著 集英社 | 日本文学全集15 | 72 他 (浦・熊・川・久) | |
| 子供向劇映画 | あしたの空は青い空 | 新生映画 | 80 (浦) |
| がんばれ、ろくしん先生 | 井村千恵子著 こずえ堂 | 79 (浦・熊・川・久) | |
| インダイヤしまごろう | 学研 | 77 (熊) | |
| 同 菅能秀一著 文研出版 | 71 (浦・熊・川・久) | | |
| チビ六・二死満塁 | 共和教育映画社 | 79 (浦・久) | |
| 同 砂田弘著 ポプラ社 | 83 (浦・熊・川・久) | | |
| 同 チョコレート戦争 | 教育映画配給社 | 近代映画協会 | 81 (久) |
| 同 大石真著 理論社 | 73 (浦・熊・川・久) | | |
| 同 走れ！ぼくの小さな友だち | 東映 | 83 (浦) | |
| 同 舎川雅子著 岩崎書店 | 83 (浦・熊・川) | | |
| 同 春風の子どもたち | 東映 | 82 (川) | |
| 同 月の顔 | 花岡大学著 P H P 研究 | 78 (浦・熊・川・久) | |
| 同 月の道 | 花岡大学著 P H P 研究 | 79 (浦・熊・川) | |
| 同 ピッピの宝島 | ピッピ南の島へ行く | | |
| 北星 | 74 (浦) | | |
| ピッピ南の島へ | リンドグリーン著 岩波書店 | ヘリンドグリーン作品集3 | 76 (浦・熊・川・久) |
| 同 ひみつのかたつむり号 | 学研 | 76 (浦) | |
| 同 佐藤さとる著 童心社 | 75 (浦・熊・川) | | |
| 同 フララ・フララ物語 | 東映 | 83 (川・久) | |
| 同 フララ・フララ | 山下ハルの手記 | 岸武雄著 小学館 | 81 (浦・熊・川・久) |
| 同 ミリ子は負けない | 教育映画配給社 | 近代映画協会 | 83 (浦) |
| 同 寺村輝夫著 金の星社 | 76 他 (浦・熊・川・久) | | |
| 同 山の子平太 | 東映 | 80 (浦) | |
| 同 神かくしの山 | 岩崎京子著 偕成社 | 偕成社文庫35 | 78 (熊・川・久) |
| 子供向アニメーション | 赤毛のアン | 共和教育映画社 | 80 (川) |
| 同 モンゴメリー著 講談社 | 78 他 (浦・熊・川・久) | | |
| 同 おこりじぞう | 翼プロ | 83 (川・久) | |
| 同 山口勇子著 新日本出版 | | | |

- 社、82 他 (浦・熊・川・久)
- オズの魔法使い 東宝、82 (川)
- 同 ライマン・フランク著 文研出版《世界名作短編集》、71
- 国主社、78 他 (浦・熊・川・久)
- クオレ物語―愛の学校― 共和教育映画社、82 (川)
- 愛の学校 エドモンド・デ・アミ・チス著 日本書房、73 他 (浦・熊・川・久)
- くまの子ウーフ 教育映画配給社、82 (熊・川)
- 同 神川利子著 ポプラ社《ポプラ社の創作童話11》、73 他 (浦・熊・川・久)
- しあわせの王子 共立映画社、75
- (浦)
- 同 オスカ・ワイルド著 文研出版《世界名作短編集》、71
- 他 (浦・熊・川・久)
- ジャンバルジャン物語 フジテレビ東映、81 (熊)
- ああ無情 ユーゴー著 小学館《少年少女世界の文学12》、70 他 (浦・熊・川・久)
- せむしの仔馬 東映配給、77 (川)
- 同 イエルショーフ著 旺文社、77 他 (浦・熊・川・久)
- トビウオのぼうやはびょうきです 翼プロ、83 (川)
- 同 いぬいとみこ著 金の星
- 社、82 (浦・熊・川・久)
- 花さき山 東映、77 (浦・久)
- 同 斎藤隆介著 岩崎書店
- 71 (浦・熊・川・久)
- 花のき村と盗人たち 東映、76 (浦・熊)
- 同 新美南吉著 大日本図書
- 75 (浦・熊・川・久)
- ふらいばんじいさん 東映、82 (川・久)
- 同 神沢利子著 あかね書房
- 77 (浦・熊・川・久)
- ヘンゼルとグレーテル 学研、83 (川・久)
- 同 グリム著 ほるぷ出版
- 83 他 (浦・熊・川・久)
- ◆編集後記
- 梅一輪一輪ほどのあたたかさ
○俳聖芭蕉は弟子の其角嵐雪を両手の桃と桜にたとえて作句しているが、この句はその嵐雪の風情を、現代に通用する早春の風情を詩った名句でありました。
- ところが今年、余寒厳しく残雪を渡る風は頬を刺すような毎日でありました。でも十九号をお届けできる頃は、日増しにあたたかさが加わり春暖を迎えていることと存じます。
- 本号は久喜図書館において、折原先生から師弟のきづなを伝える名文をいただき、紙上を飾ることができました。
- 五十八年度を終るにあたり、各館で執筆・写真に御尽力の方、館外から図書館のために御力添えをいただいた方々に、厚く御礼を申し上げます。編集のむすびといたします。

おたすねください

里、海里とは

問 距離を表す、「里」・「海里」について、その起源を知りたいのですが。

答 里は中国の制度にならった古代の行政単位、条里制の区画、距離単位です。

距離単位としては、「大宝令・雑令」(七〇二年)に、五尺を一步、三〇〇歩を一里と定めています。これは五町(基準となるものさし)によつては六町ともいわれる)ほどの長さで、約五四〇メートルです。

また区画単位としては、一里が五町(六町)四方の正方形で、面積は二五町(三六町)でした。平安時代のころから、長さの一里と面積の一里とが混同して使われるようになり、ついには里程の基準として一里三六町の概念ができたものと思われています。

また、地方によつては、三八町里、四八町里、五〇町里、六〇町里、七二町里などがあり、江戸幕府は一里塚設置などを命じて三六町里に統一しようとしたが徹底せず、明治九年に、一里三六町(三九二七メートル)

ル)と定められました。現在では正式には使用しておりません。

海里は、航海に用いる距離単位で、一海里は、地球の子午線上の緯度一分に相当する長さです。一七世紀、イギリスの数学者で、技術者でもあるガントーの提案で設けられましたが、地球が長円形であるため、緯度によつてその長さが異なります。

イギリスでは四八度の地点、その他の国では四五度の地点の長さを使用してゐるため、一九二九年「国際海里」の名称のもとに、緯度一分の平均の長さを、

一海里二八五二メートルとしました。

資料「大日本百科事典」
「日本国語大辞典」 小学館、
「世界大百科事典」 平凡社
「単位の起源事典」 東京書籍
「単位の小事典」 共立出版
「計測の文化史」 橋本万平著 朝日新聞社
「歴史の中の単位」 小泉製炭勝著 総合科学出版
「日本人の尺度」 望月長興著 六芸書房